

12月4日～10日は、人権週間です

インクルーシブな社会を創造する

生涯学習だより

問 教育課 生涯学習係 ☎(83)7021

今年、パリでオリンピックとパラリンピックが開催されました。世界中のアスリートが集結し展開された熱い闘いに世界中が興奮に湧きました。

国際パラリンピック委員会(IPC)のビジョンは、

「パラスポーツを通じ、インクルーシブな社会を創造する」です。

さまざまな障がいのあるアスリートたちが創意工夫を凝らして限界に

挑むパラリンピックは、多様性を認め、誰もが個性や能力を發揮し活躍できる公正な機会が与えられている場です。観戦をしながら、私たちは選手がそれぞれのスポーツに向き合う真摯な姿に感動し、たくさんのエネルギーを送りました。大会をとおして、社会の中にあるバリアを減らしていくことの必要性や、既存の発想を転換する必要があることにも気づかされたと思います。

パラリンピックの始まりは？

パラリンピックの始まりは、1948年7月29日、英国ロンドン郊外にあるストークマンドビル病院で車いす選手(16人)が参加したアーチェリー大会で、第二次世界大戦で脊髄を損傷した兵士のリハビリが目的でした。この大会が原点となり、「パラリンピックの父」と呼ばれるルードウィヒ・グットマン

博士が、パラリンピックへと発展させました。第1回は、1960年ローマ大会。同地で行われた第17回夏季オリンピックが閉幕して6日後に開かれ、23の国から400人の選手が参加しました。そして、1964年に第2回パラリンピックが、東京で開催されたのです。

「五千円札の津田梅子」

どんな人か、

ご存知ですか？

明治四(一八七〇年、

日本初の女子留学生5人

のうち最年少6歳でアメリカに渡り、11年の留学生活の後に帰国しました。

帰国した梅子さんは、日本の女性が、男性と同じように教育を受けたり職業を選択したりする自由のないことにも驚きました。その後、多くの困難を乗り越えて、女性が高等教育を受けられる学校を創り、女性自身の意識を変え、女性の地位向上に尽力しました。津田梅子さんは、女性が一人の人間として自立して生きることの大切さを世に広めていく先駆けとなった人物です。



第2回 歴史講座

日 1月18日(土) 午前10時

場 展示ホール

内 郷土の恩人「中村舜次郎翁」

〜今迄語られない事績等について〜

講 文化財保護委員 草門隆さん